

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01242

研究課題名(和文)近代イギリスにおける感受性文学と誤認 女性、言語、社会制度

研究課題名(英文) Sensibility and Misconception in Modern Britain: Women, Language and Social Institutions

研究代表者

小川 公代 (OGAWA, Kimiyo)

上智大学・外国語学部・教授

研究者番号：50407376

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：本課題では、道徳哲学、政治経済、美学などの領域において18世紀イギリスの「感受性」を中心に、いかに女性や植民地体制下の「他者」が誤認されていたか研究してきた。感受性は、墮落に繋がる退廃的な性質を指し示すこともあるが、道徳的判断の動因にもなる。このような感受性が「誤認」を生み出す過程を医学や経験論、身体論を含めて多面的に分析し、それを、18世紀末から19世紀前半の主に女性作家による文学作品に焦点を当てながら、主に次の四つのテーマを掲げてきた。(1) 誤認と感覚や感性の関係、(2) 共感や慈善がどのように宗教的偏見などと結びついたか、(3) 「空想」と医科学言説の関係、(4) 文化的他者の誤認。

研究成果の学術的意義や社会的意義

18世紀末には家庭が居場所であった女性たちのなかから公的領域に関心を持ち始める者が増え始めた。また、奴隷廃止運動も盛んに行われた。本課題では、「多感」「動物的」といったステレオタイプが付き纏った女性、あるいは奴隷といった「他者」たちを対象に、当時の感受性文化、文学における「誤認」を検証した。それによって、女性たちが、不道徳であるとみなされたその「多感」の資質が他者への「共感」といった肯定的なものへと転換されるケースが確認された。分断に直面する現代社会においても、誤認や偏見によって「他者」を断罪するのではなく、看過されてきた声を聴く営為がいかに価値を持ちうるか考えさせられる意義深い研究となった。

研究成果の概要(英文)：We have explored the discourses of marginalized women and "Other" under the British colonial rule, centering on 18th-century idea of "sensibility" in philosophy, political economy, and aesthetic studies. Sensibility could be associated with desire which potentially causes corruption and immorality, but passion, one of the aspects of sensibility, can also contribute to moral strength. We have tried to understand how this sensibility, which is supposedly virtuous, leads to misconception by analyzing the discourses of medicine, empiricism and body theory, and also by closely reading the literary texts written mainly by women of the late 18th to early 19th centuries. We mainly focused on: (1) the relationship between misconception and sensibility and taste, (2) how concepts related to philanthropy and compassion could influence religious prejudices, (3) the relationship between "fancy" and medical discourse, and (4) how the notion of "Other" could be misrepresented.

研究分野：英文学

キーワード：教育 感受性 植民地 チャリティ 共感 怒り 誤認

1. 研究開始当初の背景

イギリス 18 世紀後半の「感受性文学」(Literature of Sensibility) は、感覚や内省を道徳的美徳として捕捉しながら、新たな語りの形式を生み出した。とりわけ女性作家たちは感受性の言語を転用したり創出して著作活動を行い、公共圏への参入を図ることが可能になった。個人の身体や内面と直結しているはずの感受性の言語が女性たちにとって社会進出の手段として機能したことになる。様々なテーマに感受性言語を適用することで、彼女たちは自らの文学の道徳的正当性を訴え、社会的意義を強調した。科研費メンバーは、医学史、幼児・女子教育、宗教、チャリティ、動物愛護、植民地支配のそれぞれの専門的な強みを生かして、この自己正当化の裏側にある感受性の二律背反性を探求することを目指した。すなわち、感受性は道徳的な側面を持つ一方で、同時代の消費文化の枠組みの中で奢侈や放蕩、快楽と結びつき、風紀紊乱ともつながる二律背反性を持っていた。文学や雑誌、医学書、教育書、美学に関する書物など、当時の出版物全体を見渡せばロマンスの形式を借用した感傷小説が氾濫しており、それゆえに道徳家や宗教家たちは感受性言語を不道徳なものとして糾弾した。本研究は、そこに感受性文学に内在する矛盾と葛藤があると捉えた。そして、ジェンダーの問題、あるいは植民地制度下の「他者」の問題としてとらえながら著作活動を行っていた当時の女性作家たちの文学作品と彼女らの言説を歪めようとする言説が拮抗していたと言える。この問題を、「誤認」や偏見の問題として捉え返し、共同研究を進めることにした。

本研究は、前年度まで行っていた基盤研究 B「感受性の(不)道徳と教育 イギリス近代文学におけるジェンダー編成の諸相」を通して得られた研究成果を基に、新たに「誤認」をテーマに研究を推進することで、どのように女性や植民地体制下の「他者」が誤認されていたかに関して理解を深めようとしたものである。科研費メンバーは、互いに連絡や報告・質疑応答の機会を設け、国内外の学会発表や論考・著作物を通して感受性、ジェンダー、教育、動物愛護、チャリティ、文学と公共圏といったテーマで成果を社会に訴えてきた。その研究の蓄積を踏まえ、それぞれの専門性を生かしながら、女性作家らが感受性文学の社会的意義をいかに正当化したかを、19 世紀前半の教育の制度化、医学・科学の展開、文学概念の変容、宗教的確執、そして帝国の拡大といったテーマにまで枠組みを拡張し、検証することを目指した。このような連携のもと、感受性の言説がどのように「誤認」を生み出すのかを医学や経験論、身体論を含めて多面的に分析することで、国際的なレベルの研究成果を上げることが目的とした。また、採択後はより多くの学会での発表、学術誌投稿など、成果公表の機会が増えることを期待した。

2. 研究の目的

18 世紀末から 19 世紀前半にかけて、不道徳で猥らな感受性言語への批判と抵抗がイギリス社会に顕著に見られる中、女性たちが上述の複数の領域に参入し、感受性の言語化を図り、その道徳性を正当化する試みは、女性の言語態確立のための戦いでもあったと考えられる。男性的言語が支配的であったイギリス国内の文壇では女性作家も一種のサバルタンであり、彼女たちは二律背反的な感受性言語を戦略的に用いて、自らの文学の意義を正当化する必要に迫られていた。また、感受性は、墮落に繋がる退廃的な性質を指し示すこともあるが、道徳的判断の動因にもなった。共感に基づく子供や動物、貧民や奴隷、植民地の先住民たちの表象には、女性言語の抑圧への嘆きとその解放への希求が介在している。しかし、彼女たちの言説は、奴隷や貧民の声を代弁するようで、既存の制度の存続を肯定するような矛盾も孕む。この時代、教育やチャリティ、科学、宗教などに関して国家レベルで新たな制度構築が進むが、女性たちの感受性言語は男性支配の社会構造に抵抗しながらも、近代の制度化に貢献していくというジレンマを抱え込んだ。ジェンダー研究や社会文化史の視点を取り入れながら歴史的考察に基づくアプローチで、言語文化としての文学と近代的制度との関係性を分析し、最終的には他者への共感や思いやりの心の涵養が求められている多文化共生の現代が直面する諸問題に文学が寄与する可能性を考えていた。

感受性そのものについては多数先行研究がある。1970 年代までは、「前ロマン主義」として片付けられていたが、1980 年代以降、Janet Todd, *Sensibility* (1988) や Ann Jessie Van Sant, *Eighteenth-Century Sensibility and the Novel* (1993) が示唆したように、感受性を賛美する 18 世紀の言語文化は、人間の神経体系を明らかにした解剖学の進展と連動しつつ、自然美を礼賛する「ピクチャレスク」や「崇高美」といった美学的概念の創出ともつながっている。Francis Hutcheson や David Hume、Adam Smith らのスコットランド啓蒙思想においても「仁愛」、「憐憫」、「情操」、「共感」は重要概念として強調され、宗教的にも「福音復興」を通して人間の内省や内面的美徳は宗派横断的に共有された。特にメソジズムは神の恩寵を感覚的経験として体感させることで貧困層に支持されていく。フランス革命や急進主義と結びついていく感受性の政治的意義を指摘した Chris Jones の *Radical Sensibility* (1993) や、感受性と社交性を関連付けた John Mullan の *Sentiment and Sociability* (1988) といった研究もある。しかし、これらの研究は感受性を道徳的・美学的な美徳として一面的にとらえる傾向のため、感受性と社会問題との関連性について考察が不十分であり、近代的制度構築を背景にした感受性言説の教育的・文学的意義を明確化できていないことを確認した。

代表者である小川公代は、アダム・スミスやルソーらの情操論を踏まえつつ、Steven Bruhm の *Gothic Bodies* (1994)、Catherine Packham の *Eighteenth-Century Vitalism* (2012)、Yasmin Solomonescu の *John Thelwall and the Materialist Imagination* (2014)などを吟味し、神経学・脳科学・生理学が形成した唯物論的主体について研究し、それが他者への「共感」(sympathy) という道徳的な価値に結びつくかを、成果として発表することを目指した。分担者は、それぞれ女性教育、文学教育、チャリティ、道徳・礼儀作法書、植民地制度における他者というテーマを探究した。土井良子は、Wakefield の学習書、Sarah Fielding の *The Governess* (1749)、Elinor Fenn の *The Art of Teaching in Sport* (1785)、Wollstonecraft の *Original Stories from Real Life* (1788)等の女性作家による school stories を題材に、教育者とそれを受ける生徒の間で共有される、あるいは抑制される感受性の問題を検討することを目的とした。原田範行は、文学教育に関する具体的な教育書と感受性文学の動向との関係に関する考察を時代的に伸ばし、ヴィクトリア朝の文学教育との接続状況を確認することで、現代にいたる文学教育やキャンソンのとしての文学作品の性格を、感受性文学の観点から整理・体系化することを目指した。大石和欣は、女性たちによる感受性の言語がいかにチャリティ言説のなかで機能し、私的扶助の制度化のなかに組み込まれていくかを、Harriet Martineau や Charlotte Bronte を中心とした感受性言説のなかで検討した。川津雅江は、19世紀初期の William Lambe, John Frank Newton などの菜食主義サークルの思想と Mary Shelley や Mary Wollstonecraft らの小説や著書を考察することを目指した。吉野由利は、「共感の限界」とリアリズムの相克のケース研究を体系的にまとめつつ、その上で、帝国の周縁からイギリス的感受性をあぶり出し、感受性の理解にどのような新たな知見をもたらすことができるか、Maria Edgeworth らのアングロ・アイリッシュ作家の言説に注目しながら検討した。

3. 研究の方法

18世紀後半から19世紀初頭のイギリス女性作家たちの教育的言説における不道徳な感受性の「制御」を試みる言語的構造を、教育や慈善、科学、文学、植民地支配の制度化が進展する文脈に視野を広げ、教育史・社会文化史からの観点も取り入れ、ジェンダー問題として考察した。調査・分析の分担をしながら同一テーマを複眼的に検証することで国際レベルの成果発表を継続しようとした。毎年研究会や講演を最低3回開催することで、互いの知見を共有した。国内で入手不可能な資料については夏期・春期休暇中に分担調査を行う予定だったが、コロナ禍で実現せず、その代わりに購入した書籍をあたり、アーカイブ調査に従事することに軸をおいた。研究成果は国内外の学会発表や学術誌への投稿を通して公表をした。また、最終年度に刊行予定であった論文集のために、各科研費メンバーがそれぞれのテーマについて研究会などで口頭発表し、それを活字化して成果につなげた。可能な限り資料購入費を優先的に確保し、国際的な研究交流も行うことで、他領域から見ても説得力のある充実した研究成果を目指した。

4. 研究成果

代表者をはじめ、各分担者は、それぞれの専門性を生かしながら、18世紀の「感受性文化」と女性作家や植民地体制下の「他者」がいかに誤認されていたかを研究してきた。コロナ禍によって、予定していた国際シンポジウムの開催は実現しなかったが、最終年である2023年には、ウプサラ大学のエマ・クレーリ教授を招いて、研究会を開催することができた。また研究課題を多角的学際的に探究するため、研究集会のみならず、公開講演会をオンラインなどで定期的に主催した。ドイツ史、医学史が専門の森田直子氏、医学史研究者の鈴木晃仁氏、西洋経営史、イギリス近世史が専門の山本浩司氏などによる講演から新たな知見を得ることができた。また、本研究では、ウプサラ大学のエマ・クレーリ氏を日本に招聘し、東京大学で講演会、意見交換会を開催したり、オンラインでウォータールー大学のトリスタン・コノリー氏の講演会を実施する開催するなど、国際的な連携を強化することができた。このように、学際的な感受性研究を行っている多様な研究分野の研究者の講演会、研究会を複数回行うことで、感受性と誤認をめぐる知見を多方面から得ることができた。これらの講演会開催については、科研費メンバーの所属先の上智大学、東京大学、学習院大学の関連部局・研究機関、関連学会との連携によって実現した。

活字の研究成果については、最終成果を『感受性とジェンダー 共感の文化と近現代ヨーロッパ』(水声社、2023)にとりまとめ、刊行することができた。この論集は、過去十年間余りに及ぶ科研費研究課題3件、すなわち、科学研究費補助金基盤研究B「感受性の〈不〉道徳性と教育 イギリス近代文学におけるジェンダー編成の諸相」(2013~2015年度 研究代表・土井良子)同「近代イギリス女性作家たちの言語態と他者 - 感受性、制度、植民地」(2016~2018年度 研究代表・小川公代)および同「近代イギリスにおける感受性文学と誤認 女性、言語、社会制度」(2019~2022年度 研究代表・小川公代)の共同研究の一端である。科研費メンバーがこの論集を執筆する際には、過去10年にわたる感受性をテーマに共同研究を通じて、他分野の専門的な知識を共有できたことが大きい。

これらの科研共同研究を継続する間に招いた講師は、伊東剛史氏、後藤はる美氏、富樫剛氏、そして海外からは、18世紀感受性文学の再評価を牽引されたケンブリッジ大学のジャネット・トッド氏とロンドン大学クィーン・メアリー・コレッジのマークマン・エリス氏に加え、悲劇と音楽を横断するご研究を展開されるアバディーン大学のデレック・ヒューズ氏、ロマン派期の文学と科学の関係をポストコロニアルの観点から検証されるトロント大学のアラン・ビューエル

氏らを含む。このような最先端の知見を得て、それらを生かすことができたのも大きな功績であると考えている。また、この論集においては、共同研究者（代表者・分担者）の他に、本研究で講師として招いた森田直子氏の他にも、この10年間で講師として知見を共有していただいたイギリス政治思想史が専門の犬塚元氏、ロマン主義文学とイギリス思想を研究されてきた大河内昌氏、フランス文学者の井上櫻子氏にも寄稿していただくことができた。

国内外の学会報告、学術雑誌への投稿、単著、共著の研究書の刊行を含め、本研究の成果として多数発表することができた。また、研究書のみならず、教育書や翻訳などの刊行を通じて、社会的還元を図ることができたのではないと思う。他者理解にも通じる感受性文学の研究は、今日の「ケア」の言説へと発展する水脈となったため、今後も継続して感受性とケアについて研究していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計48件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小川公代	4. 巻 8月号
2. 論文標題 私にとってフェミニズムとは（特集=わたし/たちの声、詩、ジェンダー、フェミニズム）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代詩手帖	6. 最初と最後の頁 56～58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川公代	4. 巻 春号
2. 論文標題 弱者の視点から見るー暴力と共生の物語	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小説 TRIPPER（トリッパー）	6. 最初と最後の頁 405～425
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川公代	4. 巻 夏号
2. 論文標題 SF的想像力が生み出すサバイバルの物語	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小説 TRIPPER（トリッパー）	6. 最初と最後の頁 421～441
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川公代	4. 巻 秋号
2. 論文標題 有害な男らしさ に抗する文学を読む	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小説 TRIPPER（トリッパー）	6. 最初と最後の頁 197～219
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川公代	4. 巻 冬号
2. 論文標題 死者の魂に思いを馳せるー想像力のいつくしみ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小説 TRIPPER (トリッパー)	6. 最初と最後の頁 229-251
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川公代	4. 巻 11月号
2. 論文標題 エリザベス女王 唇を噛み締めて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 群像	6. 最初と最後の頁 256 ~ 263
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川公代	4. 巻 3月号
2. 論文標題 翔ぶ女たちー野上弥生子論	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 群像	6. 最初と最後の頁 27 ~ 52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川公代	4. 巻 3月号
2. 論文標題 『親切なかムジャさん』論 ケアの臨界点 (特集=パク・チャヌク)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 149 ~ 157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川公代	4. 巻 1/27発売号
2. 論文標題 物語の効力と危うさの両方を「予言」する」鴻巣友季子『文学は予言する』（書評論文）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 波	6. 最初と最後の頁 86～87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田範行	4. 巻 3572号
2. 論文標題 アヌス・ミラピリス（驚異の年）のイギリスが生み出すものは何か？	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田範行	4. 巻 123巻3号
2. 論文標題 サミュエル・ジョンソンの夢 ジェフリー・チャーサーとイギリス18世紀	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 藝文研究	6. 最初と最後の頁 42-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石和欣	4. 巻 第10号
2. 論文標題 コメンタリ イギリス文学研究から見える感情史の展望と課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 女性とジェンダーの歴史	6. 最初と最後の頁 26-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石和欣	4. 巻 第46号
2. 論文標題 ロマン主義的政治思想? ベンサム、マルサス、コウルリッジ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 イギリス哲学研究	6. 最初と最後の頁 89-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石和欣	4. 巻 第664号
2. 論文標題 慈悲と共感の武士道	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊武道	6. 最初と最後の頁 36-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石和欣	4. 巻 第665号
2. 論文標題 怒りと義憤と憎悪と	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊武道	6. 最初と最後の頁 14-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石和欣	4. 巻 第666号
2. 論文標題 「拍子」あるいはリズムと間	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊武道	6. 最初と最後の頁 14-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石和欣	4. 巻 第667号
2. 論文標題 道場という「間」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊武道	6. 最初と最後の頁 24-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石和欣	4. 巻 第668号
2. 論文標題 時代小説に潜在する武道の心性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊武道	6. 最初と最後の頁 16-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石和欣	4. 巻 第669号
2. 論文標題 品格と威厳の難しさ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊武道	6. 最初と最後の頁 50-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石和欣	4. 巻 第670号
2. 論文標題 呼吸についての煩悩を釈明する(1)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊武道	6. 最初と最後の頁 16-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石和欣	4. 巻 第671号
2. 論文標題 呼吸についての煩悩を釈明する(2)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊武道	6. 最初と最後の頁 16-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石和欣	4. 巻 第672号
2. 論文標題 背骨と姿勢の力学的・文化的構造	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊武道	6. 最初と最後の頁 24-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石和欣	4. 巻 第499号
2. 論文標題 影」「響」という身体知	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 月刊剣窓	6. 最初と最後の頁 2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川公代	4. 巻 増刊第13号
2. 論文標題 ケア とは何か? 横臥者たちの物語	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『臨床心理学』誌(治療文化の考古学)	6. 最初と最後の頁 185-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川公代	4. 巻 Vol.5
2. 論文標題 ウルフと日記 パンデミック小説を書くこと	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 シモーヌ(現代書館)	6. 最初と最後の頁 71-74
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川公代	4. 巻 第20号
2. 論文標題 (書評論文)オスカー・ワイルド著、宮崎かすみ編訳『新編獄中記 悲哀の道化師の物語』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 オスカー・ワイルド研究	6. 最初と最後の頁 108-115
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川公代	4. 巻 4月号
2. 論文標題 女たちのアナキズムーメアリ・シェリーから金子文子まで	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 文学界	6. 最初と最後の頁 91-101
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川公代	4. 巻 夏季号
2. 論文標題 文学における怒り アーサー王伝説から『進撃の巨人』まで	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 文藝	6. 最初と最後の頁 134-146
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石和欣	4. 巻 6月号
2. 論文標題 伝統の継承と刷新	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊 武道	6. 最初と最後の頁 24-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石和欣	4. 巻 11月号
2. 論文標題 武将の「力」を考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊 武道	6. 最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石和欣	4. 巻 1月号
2. 論文標題 草の心	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊 武道	6. 最初と最後の頁 42-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川津雅江	4. 巻 no.44
2. 論文標題 女性と身体運動	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本ジョンソン協会年報	6. 最初と最後の頁 12-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ryoko Doi	4. 巻 Vol.41, No.1
2. 論文標題 Catharine, Catherine and Young Jane Reading History: Jane Austen and Historical Writing	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Persuasions On-Line	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田範行	4. 巻 第6巻、第6号 (アン・ブロンテ生誕200年特集号)
2. 論文標題 なぜヘレン・バーズは『ラセラス』を呼んでいたのか? 『ジェイン・エア』と幸福探求の表現史	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ブロンテ・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 15-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田範行	4. 巻 第119巻第1号
2. 論文標題 『フィーマイル・アメリカン』の空間表象と環大西洋的修辞学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 藝文研究	6. 最初と最後の頁 33-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田範行	4. 巻 第8巻第8号
2. 論文標題 女性たちの大西洋往還と創作の磁場 ポカホンタス、ベーン、モル、ウィंकフィールド	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 女性とジェンダーの歴史	6. 最初と最後の頁 3-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田範行	4. 巻 第82巻第1号
2. 論文標題 形態論、出版文化史、表象文化論からみた縮緬本の統合的研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京女子大学比較文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉野由利	4. 巻 第18巻
2. 論文標題 「女性の越境と文芸共和国—『放浪者』と『パトロニッジ』におけるナショナル・アイデンティティの構築と「公共圏」の可能性」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文	6. 最初と最後の頁 57-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉野由利	4. 巻 第66輯
2. 論文標題 19世紀文学観光—AustenとEdgeworthを中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学習院大学文学部研究年報	6. 最初と最後の頁 73-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川公代	4. 巻 18
2. 論文標題 ワイルドとドイルのクィアナ”スピリチュアリティ” 「真面目」は肝心か、肝心でないか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 オスカー・ワイルド研究	6. 最初と最後の頁 25-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川公代	4. 巻 8
2. 論文標題 ゴドウィン・サークルーアナキズムの思想を辿って	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 レイモンド・ウィリアムズ研究	6. 最初と最後の頁 28-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川公代	4. 巻 13
2. 論文標題 オースティンの 革新性 モダニズム期の心理写実的技法を先取る	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ジェイン・オースティン研究	6. 最初と最後の頁 69-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石和欣	4. 巻 11
2. 論文標題 オースティンの公共圏	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 関東英文学研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川津雅江	4. 巻 39
2. 論文標題 ウルストンクラフトと女性のナチュラル・ヒストリー(特別寄稿論文)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中部英文学	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉野由利	4. 巻 18
2. 論文標題 女性の越境と「文芸共和国」－『放浪者』と『パトロニッジ』におけるナショナル・アイデンティティの構築と「公共圏」の可能性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文	6. 最初と最後の頁 57-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉野由利	4. 巻 66
2. 論文標題 19世紀文学観光－オースティンとエッジワースを中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学習院大学文学部研究年報	6. 最初と最後の頁 73-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土井良子	4. 巻 13
2. 論文標題 “But history, real solemn history, I cannot be interested in”: 歴史を読む／書くジェイン・オースティン	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ジェイン・オースティン研究	6. 最初と最後の頁 49-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田範行	4. 巻 40
2. 論文標題 Why Was Helen Burns Reading <i>Rasselas</i> ?: A New Perspective on the Literary Legacy of the Eighteenth Century of the Brontes	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Colloquia	6. 最初と最後の頁 2-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計38件（うち招待講演 28件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 小川公代
2. 発表標題 ラドクリフ『ユドルフォ城の怪奇』と医科学言説 死者から生者へ
3. 学会等名 日本オースティン協会第15回（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小川公代
2. 発表標題 オーウェルと想像力
3. 学会等名 ジョージ・オーウェル生誕120周年記念イベント「暗闇のなかの希望」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小川公代
2. 発表標題 ケア文学の誕生 交差するケアと倫理と英文学
3. 学会等名 日本英文学会北海道支部 第67回大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川津雅江
2. 発表標題 文学における親子離隔の表象
3. 学会等名 日本ヴィクトリア朝文化研究学会第22回大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 原田 範行
2. 発表標題 <ポスト><ウィズ>コロナ時代の英語英米文学研究 デジタル・ヒューマニティーズに向けて
3. 学会等名 日本英文学会第94回全国大会特別シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 原田 範行
2. 発表標題 合同前後のアイランドをめぐる 言語、ジェンダー、自然
3. 学会等名 第54回日本ジョンソン協会全国大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 原田 範行
2. 発表標題 環境文学としてのジョージ・エリオット作品 家屋、小屋、風景
3. 学会等名 日本ジョージ・エリオット協会第25回全国大会特別講演（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 原田 範行
2. 発表標題 独立と環大西洋交流の諸相 Wielandを読む
3. 学会等名 科研費研究会「間大陸的ゴシック C・B・ブラウン再読」基調講演（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉野由利
2. 発表標題 合同前後のアイランドをめぐる 言語、ジェンダー、自然
3. 学会等名 第54回日本ジョンソン協会全国大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大石和欣
2. 発表標題 日常生活という遺産の継承 ナショナル・トラストのコテッジ保存と戦略
3. 学会等名 文化遺産信託研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大石和欣
2. 発表標題 世紀末のコテッジと農村共同体 トマス・ハーディ小説における建築表象
3. 学会等名 第65回日本ハーディ協会大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大石和欣
2. 発表標題 Lafcadio Hearn and the Sea via English Romanticism
3. 学会等名 English Literature and the Pacific（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大石和欣
2. 発表標題 アカデミック・ライティングから東大英語教育を展望する
3. 学会等名 シンポジウム「東京大学の英語教育 - その現在と展望」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大石和欣
2. 発表標題 インタビュー "The Reception of Coleridge and Xanadu in Japan"
3. 学会等名 BBC Radio 4 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小川公代
2. 発表標題 ステファン・コリーニをロマン主義的懐古の観点から読む
3. 学会等名 ワークショップ 文学批評の再検討 ステファン・コリーニ『懐古する想像力』をめぐって
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小川公代
2. 発表標題 女性作家たちの「存在論的転回」(シンポジウム「イギリスにおけるジェンダー論のルーツ」)
3. 学会等名 日本イギリス哲学会第45回総会・研究大会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小川公代
2. 発表標題 ケアの倫理からみるフロイトとウルフ
3. 学会等名 小寺記念精神分析財団 第6回学際的ワークショップ「女性性/男性性」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大石和欣
2. 発表標題 共感とチャリティの文化史研究とグローバル化時代の課題
3. 学会等名 東京大学グローバル・スタディーズ・プログラム「グローバル・スタディーズ・セミナー」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大石和欣
2. 発表標題 詩学としての都市空間と家、そして室内空間
3. 学会等名 東京大学東アジア藝文書院「部屋と空間プロジェクト」シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川津雅江
2. 発表標題 「どうして最後の女性ではないのか」-メアリ・シェリーとメアリ・ウルストンクラフト
3. 学会等名 日本シェリー研究センター第29回年次大会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川津雅江
2. 発表標題 性、身体、健康の教育—Mrs. MasonとWollstonecraft
3. 学会等名 日本英文学会第93回大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川津雅江
2. 発表標題 女性の教育と生活の資 AustenとEliotにおけるWollstonecraftの遺産（シンポジウム「深遠なる重要性を帯びた影響 その探求の魅惑」）
3. 学会等名 日本ジョージ・エリオット協会・日本ジェイン・オースティン協会共催
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ryoko Doi
2. 発表標題 "Catharine, Catherine and Young Jane Reading History: Jane Austen and Historical Writing"
3. 学会等名 JASNA 2020 Annual General Meeting, A Virtual Event（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 土井良子
2. 発表標題 初期作品からみるジェイン・オースティンとジョージ・エリオット
3. 学会等名 日本ジョージ・エリオット協会第24回大会シンポジウム(日本オースティン協会共催)（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原田 範行
2. 発表標題 語られる琉球と日本 イギリス文学の舞台として
3. 学会等名 日本英文学会第92回大会特別シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 原田 範行
2. 発表標題 『ガリヴァー旅行記』と日本 スウィフト、御伽草子、秘められた東西交流
3. 学会等名 十八世紀英文学研究会（ジョンソン協会関西支部）例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原田 範行
2. 発表標題 ヘレン、リリー、メアリーワイルドとアメリカ再考
3. 学会等名 本ワイルド協会第46回大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原田 範行
2. 発表標題 ハワースの内と外 ブロンテ作品に見るイングランド、ヨーロッパ、世界
3. 学会等名 日本ブロンテ協会関西支部2022年大会講演（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuri Yoshino
2. 発表標題 Maria Edgeworth 's Afterlife and Edgeworthstown House
3. 学会等名 英国18世紀学会第49回年次大会 (欧州ロマン派研究連合 Romantic Europe)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kimiyo Ogawa
2. 発表標題 Jarring voices in Melmoth the Wanderer: Representing British/Irish Body Politic under the Union
3. 学会等名 32nd IASIL Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kimiyo Ogawa
2. 発表標題 Nogami Yaeko 's Adaptation of Jane Austen 's Pride and Prejudice
3. 学会等名 第45回日本ロマン派学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川公代
2. 発表標題 『フランケンシュタイン』とシェリーの天才論
3. 学会等名 文理連接プロジェクト 医学史と生命科学論
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kaz Oishi
2. 発表標題 The Aesthetics of Weeds: A Case in Nishiwaki Junzaburo?
3. 学会等名 Symposium "The Aesthetics of Imperfection" (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yuri Yoshino
2. 発表標題 Edgeworthstown house
3. 学会等名 欧州ロマン派学会連合(ERA)共同研究Dreaming Romantic Europe Oxford Workshop (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuri Yoshino
2. 発表標題 Maria Edgeworth's Afterlife and Edgeworthstown House
3. 学会等名 英国18世紀学会 (BSECS) 第49回年次大会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Noriyuki Harada
2. 発表標題 Difficulties, Approaches and Tasks in Teaching the Long Eighteenth Century
3. 学会等名 Liberlit 10 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Noryuki Harada
2. 発表標題 Eighteenth-Century Ocean Representations in Britain from George Psalmanazar's Formosa to James Cook's Journal
3. 学会等名 An International Conference on the Aesthetic Mechanisms of Ocean Representations in British, American, and Asian Contexts (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 原田 範行
2. 発表標題 女性たちの大西洋往還と創作の磁場 ポカホンタス、ペーン、モル、ウインクフィールド
3. 学会等名 第33回イギリス女性史研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計28件

1. 著者名 小川 公代	4. 発行年 2023年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 280
3. 書名 ケアする惑星	

1. 著者名 斎藤 幸平、小川 公代、栗原 康、高橋 源一郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 152
3. 書名 別冊NHK100分de名著 パンデミックを超えて	

1. 著者名 小川公代、吉野由利、河野哲也、森田直子、大河内昌、犬塚元、井上櫻子、川津雅江、土井良子、原田範行、大石和欣	4. 発行年 2023年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 308
3. 書名 感受性とジェンダー 共感 の文化と近現代ヨーロッパ	

1. 著者名 日本18世紀学会『啓蒙思想の事典』編集委員会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 714
3. 書名 啓蒙思想の百科事典	

1. 著者名 レベッカ・ソルニット、井上利男、東辻賢治郎、小川公代（解説）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 暗闇のなかの希望 増補改訂版	

1. 著者名 惣谷美智子、新野緑、川津雅江、土井良子、永井容子、廣野由美子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 250
3. 書名 オースティンとエリオット	

1. 著者名 富士川義之、原田範行、道家英穂、上石実加子、吉野由起、藤巻明、江澤美月、兼武道子、山田美穂子、大淵利春、結城英雄、辻昌宏、松本朗、高岸冬詩、鈴木英明、岩田美喜、東雄一郎、梶原照子、川崎浩太郎、金澤淳子、西垣内磨留美、伊達雅彦、馬場聡、峯真依子、川村亜樹	4. 発行年 2023年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 464
3. 書名 自然・風土・環境の英米文学	

1. 著者名 河内恵子、麻生えりか、生駒夏美、遠藤不比人、松本朗、原田範行、秦邦生	4. 発行年 2023年
2. 出版社 音羽書房鶴見書店	5. 総ページ数 256
3. 書名 書くことはレジスタンス 第二次世界大戦とイギリス女性作家たち	

1. 著者名 日本ジョンソン協会（服部典之、福本宰之、内田勝、Hiroki Kubota、川津雅江、原田範行、川田潤、三原穂、西山徹、金津和美、鈴木実佳、廣田美玲、吉田直希）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 284
3. 書名 十八世紀イギリス文学研究 第7号	

1. 著者名 Peter Cheyne, Andy Hamilton, Gordon Graham, Ted Gioia, David Wild, Lara Pearson, Karen lang, Eda Keskin, Kaz Oishi, Yasuo Kobayashi, Gregory Dunne, Fiona Tomkinson, Joseph S. O'Leary, Yuriko Saito, Thomas Docherty, James Kirway, Lucas Scriptor, Laura Di Summa, Sherri Irgin, Cheryl Frazier, Glenn Parsons et al	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 412
3. 書名 Imperfectionist Aesthetics in Art and Everyday Life	

1. 著者名 伊達聖伸、井上まどか、内村俊太、江川順一、岡本亮輔、小川公代、加藤久子、木村護郎クリストフ、クラウタウ・オリオン、立田由紀恵、西脇靖洋、増田一夫、見原礼子、諸岡了介、白尾安紗美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 306
3. 書名 ヨーロッパの世俗と宗教ー近世から現代まで	

1. 著者名 Kimiyo Ogawa, Mika Suzuki, Hideichi Eto, Noriyuki Harada, Yuri Yoshino, Miki Iwata, Noriyuki Hattori, Tadayuki Fukumoto, Masaaki Ogura, Hitoshi Suwabe	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Bucknell University Press	5. 総ページ数 214
3. 書名 Johnson in Japan	

1. 著者名 小川公代	4. 発行年 2021年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 226
3. 書名 ケアの倫理とエンパワメント	

1. 著者名 小川公代、吉村和明、沼野充義、渋谷哲也、森田直子、新井潤美、南谷奉良、秦邦生、伊達聖伸、野崎 敏、眞鍋正紀、堤康徳、阿部賢一、奥彩子、ジョン・ウィリアムズ、鴻巣友季子、前川知大	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風者	5. 総ページ数 503
3. 書名 文学とアダプテーション2ーヨーロッパの古典を読む	

1. 著者名 巽孝之、下河辺美知子、越智博美、後藤和彦、原田範行、舌津智之、古井義昭、圓月勝博、水野尚之、渡邊克昭、小川公代、阿部公彦、諏訪部浩一、新田啓子、渡邊真理子、池末陽子、遠藤不比人、大河内昌、中井亜佐子、黒崎政男他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 545
3. 書名 脱領域・脱構築・脱半球 二十一世紀人文学のために	

1. 著者名 Cheryl A. Wilson, Maria H. Frawley, Jodi L. Wyatt, Peter Graham, Susan J. Wolfson, Emily Rohrbach, George Justice, Michael D. Lewis, Jodi A. Devine, John C. Leffel, Juliette Wells, Kimiyo Ogawa et al	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 622
3. 書名 The Routledge Companion to Jane Austen	

1. 著者名 秦邦生、マーガレット・アトウッド(西あゆみ訳)、星野真志、中村麻美、ジャン・フランソワ・リオータル(郷原佳以訳)、小川公代、川端康雄、渡辺愛子、小田島創志、高村峰生、加藤めぐみ、伊達聖伸、渡辺愛子、吉田恭子、高橋和久	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 314
3. 書名 ジョージ・オーウェル『一九八四年』を読む	

1. 著者名 Ve-Yin Tee, Kuri Katsuyama, Laurence Williams, Li-hsin Hsu, David Higgins, Rosie Dias, Romita Ray, Kaz Oishi, Adam Bridgen, Yuko Otagaki, Steve Clark, Simon J. White, Peter Denney, Bridget Keegan	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Edinburgh University Press	5. 総ページ数 304
3. 書名 Romantic Environmental Sensibility: Nature, Class and Empire	

1. 著者名 倉林秀男、原田範行	4. 発行年 2020年
2. 出版社 アスク出版	5. 総ページ数 359
3. 書名 オスカー・ワイルドで学ぶ英文法	

1. 著者名 小倉孝誠、宇沢美子、小平麻衣子、川島建太郎、坂田幸子、申明直、関根兼、巽孝之、原田範行、松本健二	4. 発行年 2020年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 325
3. 書名 世界文学へのいざない 危機の時代に何を、どう読むか	

1. 著者名 Richard Donovan, Karolina Broma-Smenda, Ka Yan Lam Mark Williams, Robert Ono, Burcu Genç, Andrew J. Wilson, Noriyuki Harada, Piers M. Smith, Akiyoshi Suzuki	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 306
3. 書名 Robinson Crusoe in Asia	

1. 著者名 江藤秀一、倉林秀男、安藤聡、鈴木章能、中田元子、松本三枝子、米山優子、井石哲也、青山加奈、千森幹子、飯田敏博、戸田勉、大木理恵子、原田範行	4. 発行年 2022年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 317
3. 書名 文学作品に学ぶ英語の読み方・味わい方	

1. 著者名 Noriyuki Harada, Andrew Houwen, Akira Morita	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 110
3. 書名 Aspects of British Culture: Academic Approaches	

1. 著者名 Alex Watson, Mary Ellis Gibson, Ayako Wada, Kaz Oishi, Lu Jin, Kyung-Sook Shin, Ou Li, Ting Guo, Nahoko Miyamoto Alvey, Daniel Gallimore, Kimiyo Ogawa, Terence H. W. Shih, Rosalind Atkinson, Peter Otto, Steve Clark	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Palgrave Mcmillan	5. 総ページ数 414
3. 書名 British Romanticism in Asia: The Reception, Translation, and Transformation of Romantic Literature in India and East Asia	

1. 著者名 小塩和人、増井志津代、石井紀子、伊達聖伸、水谷裕佳、出口真紀子、前嶋和弘、谷洋之、飯島真里子、小川公代、ケネス・G・オキモト、飯野友幸	4. 発行年 2019年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 326
3. 書名 北米研究入門2 - 「ナショナル」と向き合う	

1. 著者名 鈴木雅之、成田雅彦、竹内勝徳、伊藤詔子、小口一郎、金津和美、藤江啓子、川津雅江、植月恵一郎、吉川朗子、スコット・スロビック（訳、大野美砂）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 305
3. 書名 トランスアトランティック・エコロジー - ロマン主義を語り直す	

1. 著者名 今井久代、中野貴文、和田博文、原田範行	4. 発行年 2019年
2. 出版社 笠間書院	5. 総ページ数 454
3. 書名 女学生とジェンダー 女性教養誌『むらさき』を鍵として	

1. 著者名 大石和欣	4. 発行年 2019年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 418
3. 書名 家のイングランドー変貌する社会と建築物の詩学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	川津 雅江 (KAWATSU Masae) (30278387)	名古屋経済大学・法学部・名誉教授 (33923)	
研究分担者	大石 和欣 (OISHI Kazuyoshi) (50348380)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究分担者	吉野 由利 (YOSHINO Yuri) (70377050)	学習院大学・文学部・教授 (32606)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	土井 良子 (DOI Ryoko) (80338566)	白百合女子大学・文学部・教授 (32627)	
研究分担者	原田 範行 (HARADA Noriyuki) (90265778)	慶應義塾大学・文学部（三田）・教授 (32612)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関